

## 中国の大学における日本古典教育 —大学専攻日本語 8 級試験受験者のニーズに応えた教材開発—

菊地真

### 要旨

中国教育部は、大学の日本語専攻学部 4 年生を対象に、大学専攻日本語 8 級試験を実施する。この試験に古典文法・文学史が出題されていることが、学部生の古典学習の一契機となっている。この大学専攻日本語 8 級試験の内容を分析し、それに対応できるように、教材の根本的な構造から考え直し、工夫していくことも日本語教育全体の水準向上に資するものとする。いっぽう中国の大学に於ける学習者には、試験対応ばかりでなく、日本古典を教養として身につけたいという期待もある。本稿ではその需要をもみたく、今までの日本文語文法講座のやり方にとらわれず、工夫を重ね、開発し、実施してきた日本古典教育の教材開発について報告する。

### キーワード

教材開発、日本古典文法、大学専攻日本語 8 級試験、日本古典知識、日本古典講読

### 1. はじめに～中国の学部における日本古典教育の現状

中国の学部における日本古典教育は二種の講座から成る。「古典日語語法」と「日本文学史」である。前者は日本語教育講座と、後者は日本文化の知識講座と位置づけられている。それぞれ半期で、授業回数は 14-16 回である。多くの大学の日本語専攻では、いずれをも必修としている。この学習成果は、中国教育部の実施する「大学専攻日語 8 級試験<sup>(1)</sup>」での古典文法及び文学史問題で試される。この試験に合格すると、中国国内での就職・進学の際に有利になる。また一部の大学院入試で、古典文法及び文学史に関する問題が出題されていることも、学部生の古典学習意欲喚起の要因となっている。

総じて中国の大学生は、検定試験とか進学試験対策には熱心である。このことの善悪はともかく、教員側としてこうした傾向を積極的に生かし、教材開発を工夫すべきと考え、2016 年から 2018 年までの中国の大学で実践してきたところを報告する。

### 2. 大学専攻日本語 8 級試験

大学専攻日本語試験とは、中国教育部実施の、大学で日本語を専攻する学生を対象とした日本語検定試験である。4 級と 8 級があり、4 級は大学 2 年次終了時の 6 月に、8 級は大学 4 年次前期終了時の 12 月に実施される。特に 8 級は、就職・進学を目前に控えた 4 年生にとって、重要な試験となっている。

大学専攻日本語試験は 2002 年 12 月に開始され、2005 年に改訂されている。8 級試験に関して言えば、当初は 200 点満点（現行は 150 点満点）で試験時間は 240 分（現行は 200 分）であった。ただし古典文法題と文学史題の選択問題全体に占める割合は改訂前後で変わらない。中国教育部は一貫して日本語学習者に、日本古典の読解力と、古典に関する知

識を要求し続けている。また当初から、問題文はすべて日本語である。

8 級試験は<試験一>と<試験二>から構成されている。全体の試験時間は 200 分で、問題数は 92 問 (150 点) である。<試験一>は聴解 (20 分 20 点) と選択問題 (90 分 90 点) から成る。選択問題は単語 (10 問 10 点)・慣用句 (20 問 20 点)・文法 (20 問 20 点)・文学／文化 (10 問 10 点)・読解 (20 問 20 点)・文章補填 (10 問 10 点) の問題群から成る。

<試験二> (90 分 50 点) は翻訳 (1 問 20 点) と作文 (1 問 30 点) から成る。

<試験一>の選択問題中にある文法題 20 問のうち、5 問が古典文法である。文学／文化題 10 問中、5 問が文学史題である。要するに試験一から聴解問題を除いた選択問題 90 問中、10 問が古典に関する問題である。その選択問題全体に占める割合は 10/90(11%)と、軽視できない配点・問題数となっている。

### 3. 8 級試験古典文法問題分析

#### 3.1 概要

現行の 8 級試験の古典文法題は、古文本を問題文にあげ、その適切な現代日本語訳を選択させる形式である。古典文法題は、2005 年の改訂以来、副詞の呼応とか敬語の方向など、現代語訳に無関係な文法知識を求める問題は出されておらず、問題文中に文法用語を使うこともない。出題本文は、古今集・土佐日記・伊勢物語・竹取物語・枕草子・新古今集・平家物語・徒然草など、いわゆる「古典文法」が概ね規則通りに通用する、10 世紀から 14 世紀までの有名作品から採られている。

#### 3.2 出題例

次に 8 級試験の古典文法問題の実例を紹介し、解法を示し、その対策を検討する。

【問題文】「風吹けば波が立たむと候ひに都太の細江に浦隠り居り。」における下線の部分の現代語訳はどれか。

- 【選択肢】 A 風が吹くので波が立つだろう      B 風が吹けば波が立つだろう  
C 風が吹けば波がたつだろうか      D 風が吹くので波が立つだろうか

(2014 年 49 問)

ここでは二つの文法知識が問われている。①「ば」が e 音につく場合は「…したので／だから／すると」と訳し、a 音につく場合は「もし…すれば」と訳する。問題文「吹けば」は「e 音+ば」なので正解は A か D のどちらかである。②「む」は会話文に用いられる場合、主語が一人称ならば「しよう」、二人称ならば「するのがよい」、三人称または生き物でないならば「だろう」なので正解は A か B である。

以上の①②のどちらにも該当するのは A である。つまり、この問題の解法に必要なのは、①「ば」と②「む」に関する文法知識である。

#### 3.3 出題傾向分析

次に 8 級試験の古典文法問題を解くために、どのような語句に関する知識が必要か、年度別・問題別に語句単位で分析した。

表 1 8 級試験分類別出題頻度一覧

未来表現 <sup>(2)</sup> 15 例	む(9 例) なむ(2 例) むべし/べし /めり/らむ(各 1 例)
過去表現 14 例	ぬ(7 例) にけり/けり/けむ(各 2 例) つ(1 例)
接続表現 8 例	ば(7 例) とも(1 例)
否定表現 6 例	ず/じ/まじ(各 2 例)
断定表現 5 例	なり/り(各 2 例) たり(1 例)
疑問表現 5 例	や(4 例) か(1 例)
受け身・使役表現 4 例	む(2 例) らる /る(各 1 例)
願望・最小限・禁止表現 4 例	ばや(2 例) だに/な…そ(1 例)
敬語表現 3 例	候ふ/侍り/奉る(各 1 例)
難義語句 6 例	[述語 (句)] おぼゆ/承く/言ふべきならず(各 1 例) [名詞] 媼(1 例) [副詞] やうやく(1 例) [助詞] ばや/が(各 1 例)

表 1 から、以下の出題傾向があることがわかる。その一つは、基本的な語法である未来・過去・断定表現と否定表現の出題数が多いことである。特に「ぬ」の識別<sup>(3)</sup>や、「ん」が「む」の音便なのか「ぬ」の音便なのか<sup>(4)</sup>がよく問われている。

二つに、日本の大学入試でよく問われる敬語が、約 5%の出題頻度でしかないことである。内容も、語句としての意味がわかれば解ける程度にとどまり、最高敬語や絶対敬語、敬語の方向など、日本の大学入試ならば出題されるような、踏み込んだ文法題はみあたらない。

三つに、助詞に関して、接続助詞「ば」に関する以外、それほど多く問われていない。日本の大学入試で頻出の係助詞の係り結びや、格助詞「が/の」の用法、終助詞の接続等の水準の高い文法題はない。単語の意味がわかれば解ける問題が散見できる程度である。

その他、難義語句は述語(句)・名詞・副詞を通して一割弱問われている。陳述の副詞や形容詞のク活用とシク活用、「ば」の順接条件の種類などの現代語訳に直結しない、いわば「文法のための文法」のような知識は問われないのである。

## 4. 教材開発の方針と教材構成の実例紹介

### 4.1 教材開発の方針

本稿の眼目は<3.3 出題傾向分析>で分析した 8 級試験の傾向を、教材の開発にどう反映し工夫をしたかにある。しかし、単なる 8 級試験の受験参考書制作論ではない。ゆえに以下、日本古典講座受講者の課程終了後の感想も視野に入れ、それをも取り込んだ教材開発に取り組んできたところを報告する。

2016 年から 2018 年の間に稿者の日本古典講座受講者に受講後、感想文を書かせてきた。総じて日本語専攻履修者としての教養として、古典が必要なことは認識されていた。全体の約半数は「学部卒業後、文化人・教師として生かしたい」と述べている。全体の三割程度は「教養として人生の中で生かしたい」と述べ、二割は「学んだ日本古典本文を引用することによって日本語表現を豊かにしたい」と述べている。積極的な内容が多かったものの「日本古典の専門家となるための基礎学習と位置づけたい」と述べた受講者は一人もいなかった。日本古典講座といえども、中国の大学では、日本古典専門家養成を目的とする

ような講義では学習意欲を喚起できない。日本で従来、行われてきた、言語学の初歩講座のような授業は適切でないのである。中国の学部生にとって古典文法は、8級試験に対応する為に必要な程度で十分なのだ。学習者の関心は、文法知識を駆使した先にある、古典本文講読と古典知識の習得の方にある。そうは言っても、それは文法学習を軽視して良いことを意味しない。以上を踏まえ、新古典教材を以下の方針で構成した。

#### 4.2 教材の構成

本教材は、8級試験に対応することに主眼を置いた<文法>、近代作品から始め時代順に配列した<古典鑑賞>、日本古代文化理解の背景となる知識を解説した<コラム>から成る。中国での日本古典授業期間は半期である。半期で一通りの古典文法を駆使する技能と古典に関する知識を習得させる。<文法><古典鑑賞><コラム>ごとに16課を用意するが、それぞれ易から難のあり方が違う。ゆえにこの三者はあえて連動させない。

<文法>は8級試験に対応できる水準を限度とし、言語学的知識は必要な最小限にとどめた。講座の進め方も、言語学の体系に忠実であることに腐心するのではなく、学習者の習得能力に配慮した上での、易から難の構成とすることを第一とした。

<古典鑑賞>の対象とする本文は、近代の文語文作品から始め、成立年代の新しい作品から古い作品の順に配列することとした。なぜなら古典本文は、成立時代が現代に近い作品ほど、語法も背景も理解しやすいからである。外国人学習者にとって文語文で書かれた作品は近代成立でも「古典」である。一方、仮名成立以前の作品は解釈に特別な配慮が必要であるゆえ、外国人学習者向けの教材としてふさわしくない。

前述の通り、8級試験は10世紀から14世紀までの作品本文から出題される。しかし本教材は、単なる8級試験対策の書を越えた、日本語学習者の期待に応えるものであることを目指している。室町後期から近代の文語文も、日本文化の理解という点から考えれば、10世紀から14世紀までの作品に劣らずに重要である。以上のことを踏まえ、近代の文語文作品から始め、古今集までを対象とした。

ある程度日本古典を学習しながらも、「文学史の知識はあり、文法もわかるが、実際古典に書かれている文が理解できない」と悩む学習者がいる。その原因はおおむね、古典知識不足にある。それに対応すべく、古典知識を話題項目ごとに<コラム>としてまとめた。<コラム>は、生活一般に関する知識及び時代的に幅広く通用する知識から順に解説した。逆に言えば、芸術的な知識及び比較的短い時代に通用した知識を後に配列した。

表2 教材の構成

課	文法	古典鑑賞	コラム
1	歴史仮名遣い	たけくらべ	古典における漢字の読み
2	断定表現	学問のすすめ	日本の漢籍受容
3	否定表現	東海道中膝栗毛	古典の中のペット1
4	受け身表現	雨月物語	古典の中のペット2
5	使役表現 否定表現	奥の細道	日本古典の人物呼称
6	過去表現	日本永代蔵	古代中世の邸宅～寝殿造り
7	推量・意志表現 a	風姿花伝	古代中世貴族の乗り物～牛車

8	推量・意志表現 b	御伽草子	日本古代の結婚
9	推量・疑問表現	徒然草	古代の葬送と喪
10	疑問・強調表現	平家物語	古代貴族社会の呪術
11	接続表現	今昔物語集	平安貴族の芸と遊戯
12	重要古語（助詞）	大鏡	平安貴族の衣服
13	重要古語（活用語）	源氏物語	古代朝廷の官職 1 一殿上人
14	敬語・敬意表現	竹取物語	古代朝廷の官職 2 一公卿
15	識別	土佐日記	古代朝廷の官職 3 一女官・僧綱
16	和歌	古今和歌集	和歌

## 5. 教材紹介

### 5.1 <文法>

当該教材は三部に分かれる。以下、それぞれの例を報告する。まず<文法>について、第6課「過去表現」の一部を紹介する。

各章毎に【概説】で課の総括を示し、次いで【概要】で課の重要事項を簡便に示した。

【概要】…三「述語連用形+けり／り／たり」けり／り／たり：「…た／…である（ている）」と現代訳する表現→文脈により「過去」にならない場合もある」のように。

以下、それぞれの項目解説では、①従来の文法説明の踏襲を廃し、現代語訳につながる最低限の知識をいわば「必要悪」的にしか教えないこと、②単なる語学・文法学上の知識は習得することを要求しないこと、③用例を煩瑣にならない程度で示し一例ずつ丁寧に説明することを原則とした。その一部を以下のとおり紹介する。

1. 「けり」：会話・和歌ならば「～である」。それ以外で用いる時は「～た」と訳す。

【例文】「いづれの御時にか、女御・更衣あまたさぶらひ給ひけるなかに、いとやんごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めき給ふありけり。」<源氏物語>

【訳】どの帝の御代であったか、女御・更衣が数多くお仕えなさっていた中に、際だって高い家の出ではないが、たいそう帝に寵愛されていらっしゃる方がいた。

～会話・和歌以外で用いられているから「～た」と訳す

【例文】「見わたせば柳桜をこきまぜて 都ぞ春の錦なりける」<古今和歌集>

【訳】見わたせば、柳や桜が入り交じり、都は春の錦である

～和歌中の用例だから「～である」と訳す。

★「けり」の識別 会話・和歌で用いられる (Yes) → 「断定」(～である／ている)  
(No) → 「過去」(～た)

どういう場面ならどう訳すかということをご指導し、必ず用例を示し具体的に解説している。学習者の便宜のため、用例には全訳を付けた。活用語の見分け方、どういう訳を選ぶ

かの識別原則は囲みで、厳密さよりもわかりやすさを優先した解説をつけた。

中国の大学学部 of 学習者にとって、文法知識は 8 級試験を解くためのものでなければならぬ。ここで修得した文法知識をどう用いれば 8 級試験を解けるのか、それを身につけるために、以下の【練習問題】で演習する。

【練習問題 9】

【問題文】「心なき身にもあはれは知られけり 鳴立つ沢の秋の夕暮れ」の下線部の現代語訳は次のうちのどれか。

【選択肢】

- A 風流心のない出家の身にも、感動ということをおぼろげにわかってしまうらしい
- B 風流心のない出家の身にも、感動ということをおぼろげにわかってしまうのである
- C 風流心のない出家の身にも、感動ということをおぼろげにわかってしまったのだった
- D 風流心のない出家の身にも、感動ということをおぼろげにわかってしまうのである

【練習問題 9 答・解説】D 「知られけり」の「れ（「る」未然形）」は心情知覚語についているので「おぼろげに…てしまう」と訳す（第 4 課参照）。「けり」は和歌で用いられているので「～である」と訳す。

【練習問題】は 8 級試験形式としつつ、内容は少し易しい問題を用意した。8 級試験では二つの文法知識を組み合わせられて作られた問題が多いが、【練習問題】は一つの文法知識だけで解ける問題を用意した。解説でどの文法知識を使えば当該題が解けるかを習得させる。次に実際の 8 級試験問題を紹介します、その解法を解説する。

【問題文】「暁になりぬれば、ただ二人出でぬ」の現代語訳は（ ）だ。

【選択肢】A 明け方になって二人きりで出発しなかった。

B 明け方になっても二人きりで出発しない。

C 明け方になっても二人きりで出発した。

D 明け方になって二人きりで出発した。（2012 年 46 問）

【答 解説】D <解説>「出でぬ」の「ぬ」は「。」の前であるから終止形、つまり「ぬ」は「～た」と訳すので C か D。「なりぬれば」は順接なので D（第 11 課参照）。

実際に出題された問題そのままを紹介するとともに、解説で 8 級試験の当該題がどのような文法知識を要求しているかを分析してみせ、この課の内容を習得したことにより、それに対応できるようになったことを理解させる。

## 5.2 <古典鑑賞>

<古典鑑賞>では、古典本文を講読したが、<文法>と内容的には連動させず、講座の順序は並行させた。<古典鑑賞>と題する。ここでは、①文学史解説は最低限とすること（文学史講座は別にある）、②多くの古典読者に支持されている「注—本文—訳」の三段構成とすること、③補注は古典の「知識」に留まらず学習者の「教養」として身につくような内容とすることを配慮した。以下第 6 課に配した<古典鑑賞>「日本永代蔵」の一部を

紹介する。

注釈	原文	現代語訳
天道;天 実;誠実 すぐなり;適切 だ ゆたかなり;ゆ ったりしてい る 身を過ぐ;生活 する 士農工商;江戸 時代の階級 二親 両親	*#天道ものいはずして、国土に恵 みふかし。人は*実あつて偽りお ほし。其心は本虚にして、#物に応 じて跡なし。これ善悪の中に立つ て、*すぐなる今の御代を、*ゆた かにわたるは、人の人たるがゆへ に、常の人にはあらず。一生一大 事*身を過ぐるの業。 <u>*士農工商の 外、出家・神職にかぎらず、始末 大明神の御詫宣にまかせ、金銀を 溜むべし。是*二親の外に命の親 なり。…</u>	天は何も言わず、国土に恵みぶか い。人は誠実でも、うそも多い。人 の心は本来、虚であり、物に応じる だけで跡を残さない。善悪の中に立 って生きる、適切に統治されている 現代を、ゆったりとわたる人は人 の中の人で、常人ではない。凡人には 一生の一大事は生きていくこと。 (士農工商であればもとより、僧・ 神職以外の人も「始末大明神」の御 詫宣に従って、お金を溜めるべき だ)。これが両親を除く「命の親」だ。
補注	#「天道ものいはずして、国土に恵みふかし。」～『古文古文真宝後集』王元之（王禹偁）「待漏院記」「 <u>天道不言、而品物亨</u> 、崔功成者何謂也。」を踏まえる。… #「天地は万物の逆旅。光陰は百代の過客。浮生は夢」←『古文真宝後集』序類 李白「春夜宴桃李園序」「 <u>夫天地者萬物之逆旅 光陰者百代之過客 而浮生若夢 為歡幾何</u> 」を踏まえる。…	

図1 <古典鑑賞>井原西鶴『日本永代蔵』

この課では、講読本文に二つの課題を付している。「【課題1】下線箇所を現代日本語になおしなさい。」はこの課までの既習の文法知識の確認である。「【課題2】『日本永代蔵』に『古文真宝集』が数多く引用されていることについてあなたの考えを述べなさい。」は、古典を単なる知識に留めず、自らの問題として考えることを促している。学習者に補注を生かし、中国人として、和漢比較の議論と結びつけられるように仕向けている。

### 5.3 <コラム>

コラムでは、<文法><古典鑑賞>と、講義順序としては並行しつつ、内容的には連動することなく、古典知識を話題項目ごとに2000～3000字程度でまとめた。<コラム>と題した。ここでは第6課に配した「古代中世の邸宅～寝殿造り」の一部を紹介する。

#### <コラム>❁古代中世の邸宅～寝殿造り

【総説】古代・中世の日本貴族の住宅は寝殿造りと呼ばれる。主殿である寝殿を中心に、南に庭園を設け、…寝殿造りは書院造りが主流となる近世まで用いられた。…

#### 【寝殿造りに関する語句説明】

◆母屋 もや：建物の中央の部屋

◆帳台 ちやうだい：建物の主人の寝床、座所 …

【寝殿造りと四合院】十一世紀の世界史の舞台、すなわち旧大陸温帯地域にあって、

多くの国が嫁取り婚である中、日本古代貴族社会の婚姻は、婿が嫁宅に住むことを原則とする、いわゆる招婿婚であった。…婚姻習俗は邸宅構造と関連している。中国貴族の邸宅である四合院には高く頑丈な塀と門があり、外部から容易に侵入できなかった。この邸宅構造に対応するかのよう、正式な結婚式をあげるまでの婚約者同士の私的な接触は制度的・社会的に固く禁じられていた。日本貴族の邸宅・寝殿造は、塀は外部からも容易に入り込むことができ、入り込んだ後も目指す女性の部屋にまで辿り着くのは難しくはない。平安貴族の婚姻習俗は、最初に恋人同士の実事があって、それから婚家が追認するので、婿となる男が人目につかず通いやすい住居環境である必要があった。…四合院では女性は特に奥まった箇所に住居があった。このため娘が好意を寄せる男性と逢いたい時には彼女の方から部屋を出て行かねばならない。…

この<コラム>は、日本の大学入試対策としての「古文常識」とは違い、外国人学習者が日本古典本文を理解させるための解説である。単に古典本文を現代日本語あるいは自国語に「置き換える」ことをしても古典はわからない。日本文化として「理解」できなければならないのである。そのための、教材としての工夫が<コラム>である。引用した箇所では、寝殿造りを四合院と比較して説明するにとどまるのでは不十分と考えた。ゆえに寝殿造りを婚姻習俗という民族文化と結びつけてみせることで、「わかる」「考える」ことを通じて、「理解」にたどり着けることを配慮している。

## 6. むすび

以上、8級試験への対応と、教養修得という日本古典学習者の二つの学習動機をとらえ、<文法><古典鑑賞><コラム>のそれぞれで内容を工夫してきたところを報告した。今後も学習者の反応を注意深く観察し、その情報を蓄積・分析することで、よりよい教材作りをめざしていきたい。

(菊地真きくちまこと・北京理工大学・mark2008@hotmail.co.jp)

## 注

1. 原語は「高等院校日語専業八級考試」以下「8級試験」と略す。
2. 表1で用いた「未来表現」「過去表現」等の用語、分類に際しての基準に関する議論は、別稿を予定している。
3. 「ぬ」の終止形として「た」と訳すか、「ず」の連体形として「ない」と訳すか。
4. 「ん」は現代文法では「む」の音便となるが、文語文法では「む」の音便で用いられる。

## 参考文献

- 伊藤朱美・松田みゆき (2018)「日本語学習に古典を取り入れる意義と可能性」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』44, 147-162.
- 佐藤勢紀子 (2014)「留学生を対象とする古典入門の授業」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』9, 99-113.
- 佐藤勢紀子 (2015)「文語文を学ぶ日本語学習者が困難を感じる点」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』7, 25-32.